

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にいただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを得る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



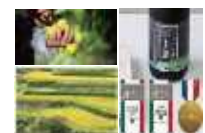
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確立する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区(者) 一覧 (徳島県)

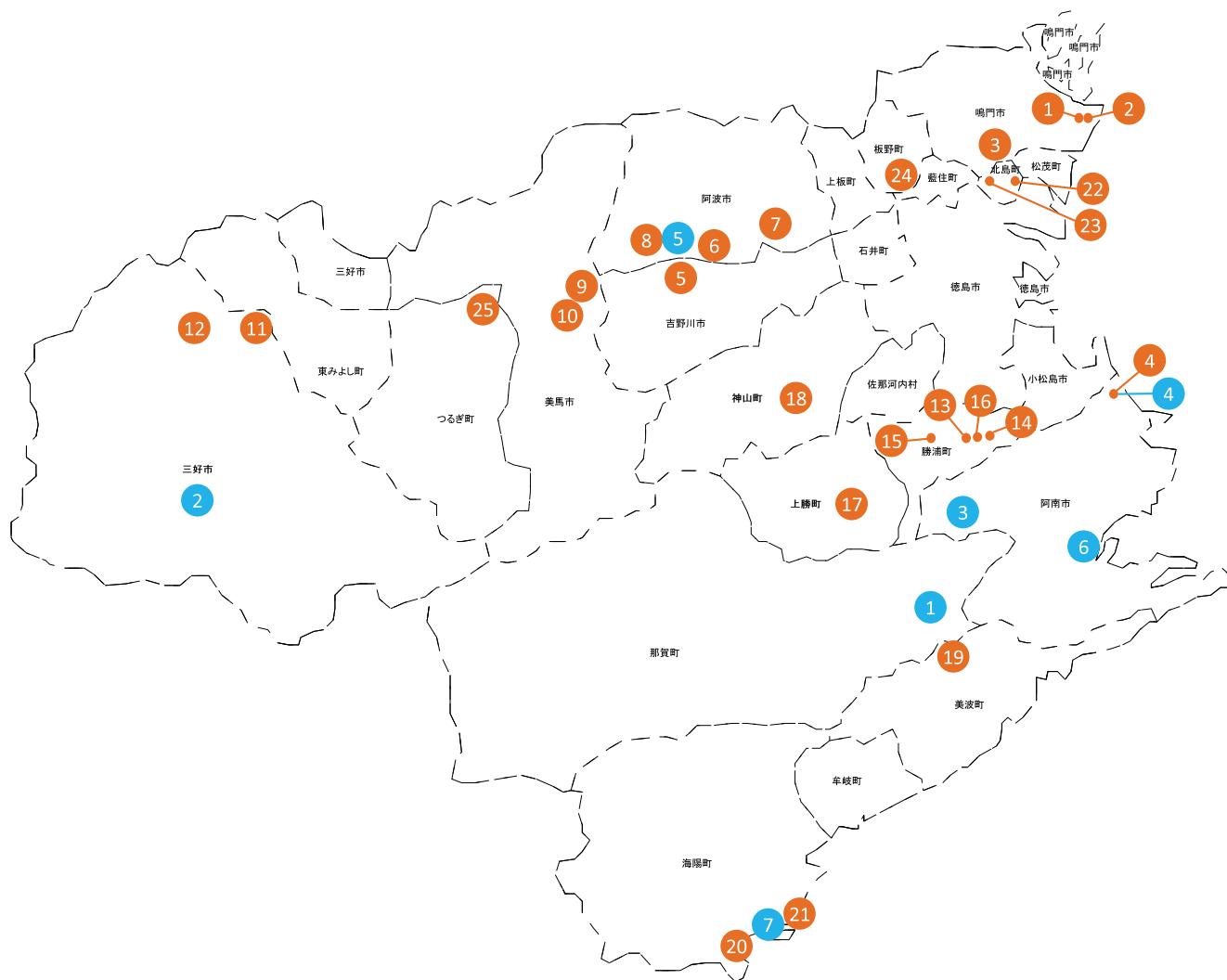
No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		団体	鳴門市	一般社団法人 TURIBITO	地域資源の活用	環境保全	学生・若者の活躍
②		団体	鳴門市	株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂	地産地消	地域活性化	食品ロスの削減
③		団体	鳴門市	株式会社 本家松浦酒造場	農福連携	地域活性化	輸出
④		団体	阿南市	なかがわ野菊の里	伝統の継承	6次産業化	環境保全
⑤		個人	吉野川市	吉尾 美咲	農業	6次産業化	女性の活躍
⑥		個人	阿波市	寺井 稔	農業	教育機関との連携	食育・教育
⑦		団体	阿波市	特定非営利活動法人 山の薬剤師たち	農福連携	-	-
⑧		個人	阿波市	檜 美紀子	女性の活躍	交流場所の提供	-
⑨		団体	美馬市	株式会社 Tea.M	農村環境・環境保全	伝統の継承	荒廃農地対策
⑩		団体	美馬市	仕出原自治会	輸出	教育機関との連携	農村環境・景観保全
⑪		団体	三好市	井川茜保存会「茜の杜」	荒廃農地対策	農村環境・景観保全	教育機関との連携
⑫		団体	三好市	一般社団法人そらの郷	地域資源の活用	地域活性化	所得・雇用拡大
⑬		団体	勝浦町	生名ロマンの会	農村環境・景観保全	高齢者の活躍	関係人口の創出
⑭		団体	勝浦町	NPO法人 阿波勝浦井戸端塾	伝統の継承	多様な分野との連携	関係人口の創出
⑮		団体	勝浦町	特定非営利活動法人 K-Friends	6次産業化	地産地消	スポーツツーリズムで地域活性化
⑯		団体	勝浦町	道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト	荒廃農地対策	農村環境・景観保全	教育機関との連携
⑰		団体	上勝町	特定非営利活動法人 郷の元気	伝統の継承	棚田保全	荒廃農地対策
⑱		団体	神山町	特定非営利活動法人 里山みらい	農業	6次産業化	-
⑲	奨励賞	団体	美波町	特定非営利活動法人 赤松煙火保存会	伝統の継承	-	-
⑳		団体	海陽町	in Between Blues (iBB)	農村文化体験	学生・若者の活躍	環境保全
㉑		団体	海陽町	合同会社みつぐるま	6次産業化	伝統の継承	学生・若者の活躍
㉒		団体	北島町	特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金	荒廃農地対策	環境保全	地域資源の活用
㉓		団体	北島町	は一とふる川内 株式会社	農業	6次産業化	農福連携
㉔		団体	板野町	らーんずita農	6次産業化	地産地消	教育機関との連携
㉕		団体	つるぎ町	家賀再生プロジェクト	農業	6次産業化	企業との連携

第10回記念賞応募地区(者)

No.	部門	市町村	地区名/氏名	過去の選定実績
①	団体	那賀町	木頭ゆずクラスター協議会	平成28年度(第3回)選定 (チャレンジ賞)
②	団体	三好市	一般社団法人大歩危・祖谷いってみる会	平成29年度(第4回)選定 (フレンドシップ賞)
③	団体	阿南市	加茂谷元気なまちづくり会	平成30年度(第5回)選定
④	個人	阿南市	新居 希予	令和元年度(第6回)選定
⑤	団体	阿波市	GOTTISO阿波(ごっつおあわ)	令和2年度(第7回)選定 (準グランプリ)
⑥	個人	阿南市	黒川 真太郎	令和3年度(第8回)選定 (特別賞)
⑦	団体	海陽町	株式会社リブル	令和4年度(第9回)選定 (特別賞)

応募地区（者）位置図（徳島県）

※ 青は第10回記念賞応募地区（者）



いっぱんしゃだんほうじん つ り び と

一般社団法人 TSURIBITO

～ワクワクや心動く瞬間を全ての人に～



地域資源である海の活用 筏でフィッシング



認定こども園にて食育講座

経 緯

- 鳴門市地域おこし協力隊として、市の釣り文化のPRや海岸清掃に取り組む中で、釣りとの縁や歴史の深さ、ウチノ海周辺の釣り屋形、養殖いけす、漁船が行き交う景観に魅了されたのと同時に、漁業の担い手不足、規格外の水産物や食害魚、海ごみ等の課題も目の当たりしている。
- これら課題を解決するため、令和4年度に一般社団法人TSURIBITOを設立。

取組内容

- 鳴門市地域おこし協力隊として“釣り”を街おこしのコンテンツとして、地元漁師と連携し筏を活用し、年間約50団体の筏の受入れを行ってきた。
- 徳島県の事業、アワーケーションの開催場所として、ANAあきんど株式会社徳島支店より委託を受け、筏を活用した体験型旅行プランを実施。

活動の効果

- 食品ロスの観点から、規格外の農水産物を使用したお弁当を作成し、『食育堂弁当』と名付け、情報発信のために、これまでに700食ほど提供した。
- 釣りを仕事としたい人に雇用を生むべく、徳島大学と連携しインターン生を受け入れ、徳島釣りインストラクター制度立ち上げに向けた鳴門の釣りに関する歴史書を作成。
- 地元の子ども園へ出張食育堂の講座として、徳島の地域資源である海や釣り、魚食育についての講座を月に2回実施している。

応募団体からのアピール・メッセージ

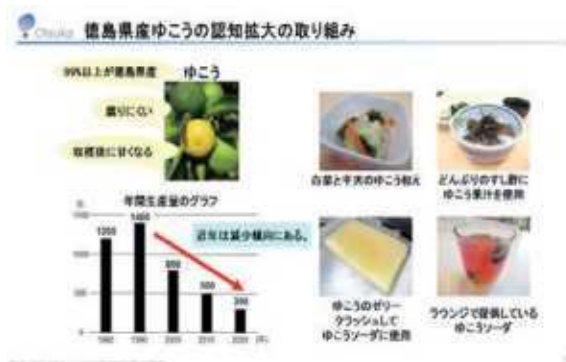
地域や自治体との連携のほか、地元大学と設立の年から地域課題に目を向けたプロジェクトを組み、連携してきた。展開として、小学校の廃校利活用で釣り観光の拠点を担う。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

鳴門市撫養町立岩字七枚113番地3 Tel:080-4214-0772

かぶしきがいしゃおおつかせいやくこうじょう そ う む ぶ しゃいんしょくどう
株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂

～地産地消で社員の健康増進と地域活性化～



社員食堂での提供によるゆこうの周知



すだちの皮を使用したメニュー

経緯

- 事業を通じた社会課題の解決、自らの持続的な成長と健康でサステナブルな社会の実現のためにはまず社員が健康であるべきとの思いから活動を行ってきた。
- 社員の健康増進に役立つ食材が地元徳島に多かったこと、また、地域貢献も進めていきたいとの考えから、社員食堂での地産地消の活動に取り組み始めた。

取組内容

- 徳島県ならではのメニューを開発することで、社員の嗜好にも配慮し、健康面でのサポートができる社員食堂としての運営に取り組んでいる。
- 徳島県産の食材を使用した上で、本来は廃棄されるような部分でも栄養価があり使用できるものは、有効活用している。
- 生産者との交流により、安定的な取引実現と安心して生産できる環境づくりに取り組んでいる。

活動の効果

- 平成30年度には、ほぼ全ての野菜を地元企業からの仕入れを開始し、令和5年度からは肉、魚等についても地産地消を推進している。
- 地元徳島産食材を可能な限り使うことで、社員の健康増進と地域の生産者に貢献や持続可能な社会の実現に寄与している。
- 徳島県産食材の購入額は、540万円(平成30年度)から1,870万円(令和5年度)で3.5倍に増加。徳島県産食材の使用割合(金額ベース)も11%から32%に増加した。

応募団体からのアピール・メッセージ

地元の生産者と積極的に関わり食材の仕入れや認知向上に取り組むことにより、生産者の売上げに貢献していきたい。そのため、生産者との交流を深め安定的な取引を行い生産者が安心して生産できる循環を広げていく。

住所・電話番号・SNS等

鳴門市撫養町立岩字芥原115 Tel:088-685-1151



かぶしきがいしゃ ほんけまつうらしゅぞうじょう
株式会社 本家松浦酒造場

～人の集う酒蔵「ナルトタイの店」で世界に情報発信～



酒蔵でのイベント開催



棚田米やゆこうを使った酒造り



経緯

- 日本酒の生産・販売量が減少する中で、徳島の豊かな農産物、美しい自然や農村の景観を製品開発や販売戦略に活用する取組を開始。
- 昭和62年から酒蔵の中では早期の段階で日本酒の輸出にも取り組む。

取組内容

- 日本酒の原材料として、全量、徳島県産米を使用。また、徳島県特産の香酸柑橘「すだち」、「ゆこう」を使ったりキュールの開発。
- コウノトリの餌場となる休耕田を活用したビオトープで栽培された米を使った日本酒を製造販売し、コウノトリの保護活動を支援。
- 酒蔵周辺エリアを紹介する「鳴門酒蔵街道」の動画・HPを作成。また、酒蔵において、地域や徳島の農産物の魅力を伝えるイベントを開催。

活動の効果

- 酒蔵への来場者は7,324名(令和2年度)から15,876名(令和4年度)と2年間で倍増し、併設する直売所の売上げは36%増加した。
- 日本酒の輸出額は、平成30年度から4年間で20%増加した。
- 香酸柑橘を使ったりキュールや棚田米、ビオトープ米等を使った日本酒の製造により、生産者の生産意欲の向上や自然保護活動の支援につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

- 酒蔵を育む農村景観等を発信することにより、酒類の輸出拡大に取り組みたい。
- すだち、鶯宿梅、ゆこう、ゆず、みかん等、徳島県及び近隣県の特産農産物の付加価値の向上と持続可能な生産への支援を具体化していきたい。

住所・電話番号・SNS等

鳴門市大麻町池谷字柳の本19番地 Tel:088-689-1110

のぎく さと
なかがわ野菊の里

～消えゆく食材 復活の決意！届け究極の逸品～



伝統黒米 弥生紫のご飯とパッケージ、収穫



20年目を迎える継続的な食育活動

経緯

- 代々栽培している伝統黒米「弥生紫」は、1,300年の長い歴史がありながら消滅の危機にあったが、「全国に誇れるお米のブランドにする」と奮起。
- 農薬・化学肥料を使わず、昔ながらの栽培方法で、地域の歴史に眠る伝統食材を復活させ、魅力の発信に取り組む。

取組内容

- 代々、我が家のみで栽培している伝統黒米「弥生紫」、約100年前伝統米「徳ばん」の継承・復活。
- 重要無形民俗文化財の「阿波晩茶の製造技術」を継承し、希少価値の高い在来茶葉で伝統的な生産方法を行い、消費者に直接販売。
- 農薬・化学肥料を使用せず、落ち葉を発酵させて米、阿波晩茶を栽培。
- 食育活動として、「学校向け食育だより」の発行や米の栽培体験を実施。

活動の効果

- 農薬・化学肥料を使用せず、落ち葉を発酵させて米、阿波晩茶を栽培するなどの環境保全の取組により、水生生物が増加。
- 毎月発行している「学校向け食育だより」や農業体験などの食育活動により、学校教育へ伝統米の導入。
- 耕作放棄地の活用や伝統技術の継承により、山間地の農業の活性化に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

全国には沢山の守るべき食材がある。それらは地域に眠る伝統食材という宝である。伝統黒米「弥生紫」のような食材を、これからも復活させていきながら、地元の方のみならず、県外や海外の方にも広めて行きたい。

住所・電話番号・SNS等

阿南市那賀川町小延94-1 Tel:088-664-1311

HP: <https://nogikunosato.shop-pro.jp/>

YouTube: なかがわ野菊の里

X: @nogiku_yoshi

～私がデザイナーに！？ 人生を変えた出会い～



徳島新聞「ピープル」に掲載



農業に関わるデザイン事例

経 緯

- 徳島県へUターン後、阿波市観光協会に在職中、若手農家のグループ「GOTTSO阿波」と出会う。
- 農業でまちおこしをしようと情熱を燃やす姿に衝撃を受け、自分にしかできないサポートの形を模索。
- 2019年に独立し、これまでの経験をいかして農業や6次産業に関わるデザインを制作。

取組内容

- デザイナーとして様々なデザインを制作する傍ら、「GOTTSO阿波」の事務局として、資料作成、写真撮影、営業、取材への同行、窓口の役割等、グループを縁の下で支えている。
- 「GOTTSO阿波」での活動から派生して、農家、農業関連企業、6次産業事業者等からのデザイン制作、ブランディング等を受託。

活動の効果

- 徳島県阿波市の魅力のひとつとして、「GOTTSO阿波」の存在を内外にPRすることができた。
- 「GOTTSO阿波」での活動で、いいものを作っている商品を知ってもらうきっかけとしてデザインは必要不可欠であると体感。魅せ方に工夫したパッケージは、生産者、バイヤー、消費者に高く評価していただいている。

応募団体からのアピール・メッセージ

デザイン等でのサポートにより、グループや農業自体をより魅力的なものにしていきたい。また、「GOTTSO阿波」や農業を含めた「地元」に恩返しができるよう、知識や技術を高めて貢献していきたい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

HP: <https://gems-creation.localinfo.jp> E-mail: gems-creation@outlook.jp



て ら い み の る

寺井 稔

～農業が、何倍も楽しくなった理由(ワケ)。～



コロナ禍が明け、試食販売を再開



食育の授業

経 緯

- 兼業農家に生まれ、高校卒業後は食品スーパーへ就職。「生産から販売まで、自分でやってみたい」との思いから、28歳の時に就農。
- 農業後継者のグループが地元にあると聞き、「何か面白いことができるかもしれない」と平成27年から「GOTTSO阿波」に加入。

取組内容

- 「野菜の力でまちおこし」を目標に、関西から関東まで野菜の出張販売や広報を幅広く行い、「まちのPR隊」として活動している。
- 「GOTTSO美～[®]ナス」の生産を始め、ブランド野菜として確立させた。小学校での食育を実施。
- グローバルGAP、とくしま安²農産物(安²GAP)(優秀)を取得。2020東京オリ・パラ選手村へ「GOTTSO美～[®]ナス」を納品した。

活動の効果

- 「GOTTSO阿波」では、これまで販売ルートの開拓や営業を自ら行ってきたため、独自の販売ルートを確立している。
- グループでの活動を通して、普段であれば交流する機会のない人たちとの関わりができたことにより、新たな情報や、消費者の声を直接聞く機会が増えた。
- 美～ナスを知ってもらうため、地元小学校で始めた食育が年数を重ねるにつれ、野菜好きの子供が少しずつ増加し、農業に興味を持ってくれるようになっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

グループの強みは仲間同士で協力し活動ができること。若手の農家を引き入れて、楽しみながら農業で儲けられるような「新たな農業」を目指していきたい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

阿波市阿波町下喜来南174-7 Tel:090-3787-2756

とくていひえいりかつどうほうじん やま やくざいし
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち

～農業を通じて幅広い人が笑顔になってほしい～



農業を学ぶ高校生との共同作業



高床式砂栽培ハウスにて体験見学

経緯

- 過疎地域における医療サービスを始めとする支援体制の構築により、住民が住み慣れた地域で少しでも長く暮らし続けられることを目的に活動している。
- 支援体制のひとつとして農福連携により、障害がい者の就労支援、高齢者の活躍の場の提供等を行っている。

取組内容

- 農業教育の場で農福連携を浸透させるため、農業を学ぶ学生と障がい者との共同作業の機会を提供。
- 軽負担でマニュアル管理しやすい高床式砂栽培ハウスを新設。障がい者だけで管理する自立型農園を目指し、障がい者の担い手を育成している。
- 「地域にない農法での農福連携」というインパクトを利用し、様々な媒体、手法で農福連携の必要性の普及に取り組んでいる。

活動の効果

- 障害者をより身近に感じた学生等が、将来農業を営む際に障がい者とともに働くことが選択肢に加わることを期待している。
- イベントでのチラシ配布、徳島新聞掲載、NHKとくしまへの出演、見学会の開催等により、農福連携の普及と理解が浸透した。
- 高齢者施設の入所者に収穫体験をしてもらう等、レクリエーションや園芸療法として農業に触れてもらうことで、明るく元気に暮らすきっかけにつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

あらゆる切り口（農福連携もそのひとつ）で地域と向き合い、住み慣れた地域で安心して生活し続けることができる地域づくりに貢献していこうと考えています。

住所・電話番号・SNS等

阿波市吉野町柿原字原194-1 Tel:088-676-3380

ひのき みきこ
檜 美紀子

～人・植物・環境に優しい庭づくり～



庭の風景 前庭



地元幼稚園のお散歩遠足

経緯

- 化学肥料、農薬散布できれいな花が咲くと信じ、庭づくりをしていたが、農薬アレルギーの不安から作業が苦痛になり始めていた。
- ふと植物の持つ生命力に賭けてみよう、と、農薬を止め有機での栽培を開始。
- 10年ほどで、土壌、生態系の変化から花が大きく香り高く咲くようになり、オープンガーデンを開始。

取組内容

- 無農薬、自作の有機肥料による「人・植物・環境に優しい庭」で誰もが気軽に楽しめるオープンガーデンを、春、秋の年2回、20年以上にわたり開催。
- 平成24年、「阿波オープンガーデンクラブ」を結成し同クラブの会長となり、次年から「阿波オープンガーデン」を開催。令和2年に脱退し、個人での開催に戻る。
- 幼稚園児の遠足先、老人介護施設の見学先として、自宅ガーデンに受け入れている。

活動の効果

- 平成25年から市協賛イベントとして開催している「阿波オープンガーデン」は、年間数千人の来場客を迎える春の一大イベントとなっている。
- 同イベント期間中は、周辺商店等の集客率も増加し、市の認知度アップにも貢献している。
- オープンガーデンが、人々との交流や癒しの場となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

たった1日だけから始めたオープンガーデンが、たくさんの人を動かし、町を揺さぶり「あのお花の町？」と市の認知度が上がりました。
 たくさんのお花でお出迎えできるように、日々努めていきたい。

住所・電話番号・SNS等

阿波市阿波町北原151番地 Tel:090-9458-2251

かぶしきがいしゃ ていーむ
株式会社 Tea.M

～手のひらの茶葉を豊かな農文化と伝統に～



渚名茶 茶畑



緑茶セミナー in シンガポール

経緯

- 穴吹町出身の理事がUターンして始めたカフェ「二とハ」。
- 令和4年1月にNPO法人化し、世界農業遺産認定の地、穴吹町渚名で茶畑の管理活動、地元高校生とのフィールドワークを実施。
- Tea.Mは「二とハ」と連携し、希少な茶葉「渚名茶」の販売、集落のブランディングを担っている。

取組内容

- 茶葉を使って集落のブランディング
緑茶の製品化を進め、令和5年には4種類の製品を主にオンラインにて販売。
- 海外への挑戦
シンガポールで商談会への参加や、緑茶セミナーを開催。希少な茶葉を使い、飲むだけではない緑茶の魅力を発信。
- 廃棄茶葉の活用
廃棄茶葉を用いて、サステナビリティに配慮した新素材を開発中。

活動の効果

- 未来の子供たちへ世界農業遺産に選ばれた農耕システムの継承と、伝統を守りながら新しい農文化を生み出すふるさと協働事業への挑戦。
- 渚名集落の魅力や、ここにしかない価値を広く発信することで、関係人口の増加につながった。地域内外の人たちが、それぞれに渚名を思い、つながることで、新しい集落の形を見つけている。

応募団体からのアピール・メッセージ

伝統と文化、お茶の可能性を引き出しながら、渚名茶をきっかけに日本のお茶文化や、飲むだけでなくお茶の魅力を広めています。
世界農業遺産認定の地、穴吹町渚名でお待ちしています。

住所・電話番号・SNS等

美馬市穴吹町穴吹字藤原11-1 Tel:090-9453-1442

しではらじちかい
仕出原自治会

～清流穴吹川と自然を楽しむ人気のスポット～



尾下自治会長と愛犬(「しでの家」の前で)



ブルーベリー狩りの様子

経緯

- はっさくの産地「仕出原集落」は、少子高齢化、後継者不足、鳥獣被害、耕作放棄地拡大等多くの問題を抱え、集落存続の不安があった。
- 各種支援制度を活用し、地域の環境整備に取り組んだ。また、美馬市から「リバーサイドしでの家」の運営を委託され、村おこしの起爆剤となっている。

取組内容

- 清流穴吹川を取り巻く景観維持のため、道路の草刈り等の環境整備を実施。
- はっさくは、EUへ輸出。毎年2月には「はっさくフェア」を実施。
- 「しでの家」は夏場の川遊びやブルーベリー狩りの人気スポットとなっている。
- はっさく収穫のため、協働パートナーを受入れ。

活動の効果

- はっさく※は、EUへの輸出で知名度アップが図られている。また、ブルーベリー※狩りは好評で、リピーターも多いことからブルーベリー観光農園を増園した。
- ※はっさく、ブルーベリーとも「とくしま特選ブランド認定」
- 「しでの家」の運営を通じ、集落の活性化や集落と外部の人々との交流が深まり、協調性が醸成された。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域伝統のはっさくを守り、品種変更をせず栽培を継続することが希少価値を高めている。「はっさくシャーベット」「ブルーベリーアイス」は「しでの家」の名物になっている。農業体験を通じ、I・Uターン者の受入れと空き家利用について自治会で検討中である。

住所・電話番号・SNS等

美馬市穴吹町口山字仕出原80 Tel:0883-52-0468

いかわあかねほぞんかい あかねのもり

井川茜保存会「茜の杜」

～茜でつながる広がる地域の輪～



ストール、ハンカチ、キーホルダー



地元小学生の茜染め体験会

経緯

- 染料として希少価値のある日本茜が、令和3年、井川地域でたくさん自生しているのが見つかる。
- 日本茜により、古代の色を再現し、茜染め製品の開発・販売を行うとともに児童生徒や地域住民への茜染め体験活動を通して地域の活性化を図りたいと考え、井川茜保存会「茜の杜」を立ち上げた。

取組内容

- 日本茜の栽培地に休耕地や耕作放棄地を活用し、会員一丸となって栽培面積の拡大に取り組んだ。
- 染め工房の整備やワークショップの開催、県外から講師を招いた体験研修の実施などにより染色技術の向上や茜染め製品の開発に取り組んだ。
- 茜染めの良さの周知や会員間の相互交流、情報共有のため、パンフレット等作成や広報誌作成に取り組んだ。

活動の効果

- 耕作放棄地を日本茜の栽培地として活用したことが、近隣住民にとっては環境や景観保全に役立った。
- ハンカチなどの製品化に加え、革素材の茜染め製品の開発にも成功。また、「ふるさと納税返礼品」や「三好の逸品」に登録し、市の特産品として周知されつつある。
- 茜染めを活用した小中学生の活動や他団体との連携は、周辺地域へ茜染めの価値を広める良い機会となり地域の活性化に役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本茜の安定した供給のため栽培地の拡張を図り、茜染め製品開発と品質向上に努めるとともに、販路開拓を行い地域の活性化を図る。

住所・電話番号・SNS等

三好市井川町辻60番地1 Tel:090-3184-1023



いっばんしゃだんほうじん

さと

一般社団法人そらの郷

千年のかくれんぼ～分け入るごとに時は遡り



伝統的な農作業ツチアゲ体験



地元農家との交流(餅つき体験)

経緯

- 農山村の暮らし体験や受入家庭と交流する体験型教育旅行の受入組織「そらの郷山里物語協議会」を、平成23年に「一般社団法人そらの郷」として法人化。
- 令和3年度に重点支援DMOに選定され、にし阿波観光圏の観光地域づくりプラットフォームとして、官民連携による農山村の観光地域づくりに取り組む。

取組内容

- 世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農業が営まれる地域への体験型教育旅行の受入れに取り組む。受入家庭での農作業や共同調理をメニューとした農泊体験を商品化。
- インバウンド向けに、農山村の畑の散策や地元農家での餅つき体験等、交流コンテンツを組み込んだツアーを開発。

活動の効果

- 体験型教育旅行宿泊者数は、平成20年度の977人泊から令和5年度には7,000人泊を超える見込み。
- インバウンド誘致数は、平成25年の4本から令和5年には23本のツアーを受け入れ。
- 観光客の増加により交流人口の増加、観光事業者、農業者等所得の向上と新たな雇用の創出により地域の活性化を実現。

応募団体からのアピール・メッセージ

訪日教育旅行や企業・大学研修等を誘致するため、教育効果の高いプログラムを開発するとともに、その実現に向け地域関係者等との連携を強化する。住んで良し訪れて良しの観光地域づくりを推進し、世界に通じる競争力の高い観光地域を目指す。

住所・電話番号・SNS等

三好市池田町シマ995-1 Tel:0883-76-0713

い く な か い
生名ロマンの会

～ボランティアでつくろう「生名ロマン街道」～



ボランティアによるイベント準備



勝浦さくら祭り・船下り



生名ロマン街道を走るトロコ列車

経 緯

- 生名区老人会等の人々が子々孫々のためにと植栽した桜(生名谷川両岸総延長約2km)が、40年以上経過し、大きく美しく成長。
- 平成15年両岸の道路を「ふれあいロマン街道」と命名し公園化。
- 桜の美しさと自然の恵みをアピールし、環境保全、地域コミュニケーション、安らぎの名所として地域の活性化活動を開始。

取組内容

- 平成16年から、3月25日～4月10日の日程で「勝浦さくら祭り」を開催し、規模を拡大しながら各種イベントを実施。
- 生名ロマン街道、生名谷川の清掃と草刈り、桜のせん定等を実施し、桜と街道の安全を確保するとともに、高齢者の活躍と地域コミュニケーションの活性化を図る。
- 町内外のボランティア等を受け入れ、地域間交流や町の活性化活動を実施。

活動の効果

- 桜と各種イベントにより、国内外合わせて3万人の来場者数となり、町内の文化経済に大きな影響を与える。
- 町内外の各種団体、学校のほか徳島市内の大学等から、1日100人を超えるボランティアの参加により、地域コミュニケーションが活性化。
- 生名ロマン街道での清掃と草刈り、生名谷川の清掃活動を年3回実施するとともに、隔年での桜のせん定等により、環境・景観保全に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

都市との地域間交流を更に促進するとともに、アフターコロナのインバウンド市場と国内へのアピールを強め、地域の活力強化に寄与したい。また、「生名ロマンの会」の後継者育成にも力を注ぐ。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

勝浦郡勝浦町大字生名 Tel:090-8970-6728

えぬびーおーほうじん

あわかつうらいどばたじゅく

NPO法人 阿波勝浦井戸端塾

～グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり～



2023ビッグひな祭り会場



ひな祭り会場の恐竜資料展示

経緯

- 勝浦町は、基幹産業である温州みかんが昭和56年の寒凍害による壊滅的な被害を受け、長年に渡りひっ塞する状態が続く。
- ふる里勝浦の再発見と町の活性化を目指し、平成3年「新とくしま県民運動推進事業」の認定を受け、同年8月に「勝浦町・地域づくり井戸端塾大会」を開催し、活動を開始。

取組内容

- 家庭で飾られなくなった雛人形を全国から集め、供養して飾る「ビッグひな祭り」を開催。ピラミッド型ひな壇100段に、約3万体の雛人形が並ぶ全国的なイベント。
- 2016年リオデジャネイロオリンピック、2020東京オリンピックの会場周辺施設で雛人形を展示。
- 平成6年、町内で恐竜の化石が発見されたことを契機に「恐竜の里づくり」に取り組むほか、徳島県が行う発掘作業を後方支援。

活動の効果

- 「ビッグひな祭り」の開催や「恐竜の里づくり」の取組により、町が活性化。
- 「ビッグひな祭り」は、全国的に有名なイベントで、同様のイベントが各地に広がっている。また、雛人形を30か国以上の国々に贈り、文化交流に貢献。
- 「恐竜の里づくり」の取組では、「恐竜ウォークラリー」を子供たちに恐竜をアピールするイベントとして継続開催。
- コロナ禍でも開催したが、団体客や高齢者施設等からの入場者が皆無で、入場者は通常開催の5割程度に落ち込む。令和4年度にはコロナも落ち着き、入場者が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

コロナも落ち着き始め、観光・交流の活発化に向けて動き出した中で、「ビッグひな祭り」再興に向けてイベントを創造しながら、インバウンドの復活を目指す。また、周辺の道の駅や産直市とも連携しながら交流人口の増加を目指したい。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35-1 Tel:0885-42-4334

とくてい ひ え い り かつ どう ほう じん けい ふれんず

特定非営利活動法人 K-Friends

～山あいの農産物・知恵・仲間を集めて～



みかん収穫体験&ウォーキングスポーツツーリズム

阿波かつうらブランド品

商品マークとクラブイメージを統一

経緯

- 生涯スポーツの振興を担う地域総合型スポーツクラブとして活動。
- 健康づくりに欠かせない要素にスポーツ×食(食育&地産地消)があるとの思いと、地域の活性化とSDGsの実現を目指す。
- 農産物加工施設の指定管理者受託をきっかけに6次産業化に取り組み、地元産みかんや野菜等を使って商品化。

取組内容

- 総合型地域スポーツクラブが6次産業化に取り組み、半年間で販売までに至る。
- スポーツツーリズムで地域活性化を図るため、地元みかん農家と連携し「かつうらみかん満喫ウォーキング」を開催。
- 「山あいの町を出た子らに、ふるさとの味を届けたい」思いと、「地元の食材や農産物の活用」を進めるため、商品の開発・製造・販売を実施。

活動の効果

- スポーツツーリズムイベントの「かつうらみかん満喫ウォーキング」を開催し、町のPRと特産物「熟成みかん」の情報発信により、交流人口の増加に貢献。
- 村の宝である子供たちに「食育&地産地消」のイベントを開催し、ふるさとの旬の農産物のおいしさや魅力を伝承。
- 令和3年12月に食品衛生法営業許可を取得。地元の野菜、果実等を使った商品「ふるさとの味」を開発し、産直市、道の駅等で順調に売上げを伸ばす。

応募団体からのアピール・メッセージ

スタートして3年目の取組だが、地元のおばちゃんの知恵と仲間で、ふるさとの味を継承していくとともに、「阿波かつうらブランド品」として、新商品の開発・シリーズ化の実現とふるさと納税返礼品への参入を目指し、地域活性化の一躍を担っていきたい。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1番地1 Tel:0885-42-3671

みち

えき

さと

さいせい

道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト

～住民が輝く地域再生の拠点づくり～



園児のコスモス種まき



勝浦校3年生さつまいもの苗植え

経緯

- 平成23年3月に勝浦町の地域づくりの拠点、町の産業発展・観光振興に寄与することを目的に道の駅を設置。
- 行政から「交流人口増加対策」、地域住民から「耕作放棄地の景観問題の解消」をそれぞれ依頼され、課題の解決策として令和3年度より地域の協働を目的とした「808(ヤオハチ)農園プロジェクト」を企画した。

取組内容

- 地域の住民や農業者、学校、社会福祉団体等と連携し、ほ場整備、観光農園やひまわり・コスモス畑の管理、収穫祭での炊き出し等の活動に取り組む。
- 7、8月夏野菜の無料配布、8月ひまわり開花、9月かんしょ収穫体験、11月コスモス開花、12月じゃがいも農園無料開放等を実施。

活動の効果

- 地域協力の下「みちのえきマルシェ」、「防災フェスタ」や「恐竜フェスティバル」などを開催。また、小学生4学年合同の販売体験「こどもマルシェ」や「阿波かつうら音楽祭」など各種イベントの開催をサポートした結果、「808(ヤオハチ)農園プロジェクト」始動による来場効果もあり、令和4年度の道の駅の売上げは、令和2年度に比べ180%を達成。
- 交流人口の増加に伴い、地域の所得拡大に貢献したほか、当駅では新規雇用を実現。
- かんしょ(さつまいも)・夏野菜・ひまわり・コスモスを作付けることで、1,300㎡の耕作放棄地を再生。

応募団体からのアピール・メッセージ

ほ場の管理を継続し、農業高校生による野菜だけのビーガン向けオリジナルカレーの開発や社会福祉団体等と連携し「地域食堂」を企画するなど、関係者が地域活性化の一員として活躍できる下地を作り、町の総合戦略に沿った地域の協働体制を強化していく。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町生名字月ノ瀬4-1 Tel:0885-44-0112

とくていひえいりかつどうほうじん さと げんき
特定非営利活動法人 郷の元気

～地域力を強化し生業を守る中間支援活動～



棚田オーナー制・早乙女



棚田×子供食堂による田植

経緯

- 「郷土」「故郷」を元気な姿で、後世に伝承していくためには、農山漁村と都市の人々が連携して、そこに眠る「宝」を再発見し、復元する「協働作業」が大切。
- まちづくり活動を推進させる力を「郷の元気」と考え、農山漁村における持続可能なまちづくりの活動を行うために、法人を設立。

取組内容

- 檜原の棚田等で、棚田オーナー制を実施することにより棚田保全、集落維持を支援。
- 高齢化による遊休農地増加や担い手不足の解消を目的として、檜原の棚田での「棚田キャンプ」、中津賀地区の棚田で「都市部の子供食堂連携」活動をスタート。
- 稲ワラを材料して製造される土壁材料のスサの伝統的製造保全のため、連携組織を構築しスサ保全中間支援PJをスタート。

活動の効果

- 民間自立型の棚田オーナー制の取組の一環で、収穫祭等の各種イベントを行い、令和4度までに9,300名の交流人口を獲得。
- 集落リーダーが集まる「やいたか」、複数の棚田活動をつなぐ「棚田未来づくり協議会」等の連携組織の起案・設立支援を行い、上勝町棚田地域の連携活動を実現。
- 八重地の棚田で、茅葺き古民家活動を行い、現在の「かみかつ茅葺き学校」自立を支援。※「やいたか」とは、八重地、市宇、田野々、檜原の棚田の頭文字から名付けたグループの名称。

応募団体からのアピール・メッセージ

上勝町での高齢化・遊休農地拡大の課題を活動資源と考え、棚田オーナー制、棚田キャンプの活動を継続。スサ保全活動は、周辺地域との連携を強化し徳島大学等の参画を得た活動を展開。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡上勝町大字川北字福原30番地 Tel:0885-46-0676 Facebook「郷の元気」

とくていひえいりかつどうほうじん さとやま

特定非営利活動法人 里山みらい

～“すだち”で里山をみらいへつなぐ～



研修の様子(摘果作業)



すだちアワードに投稿されたすだち料理

経緯

- 過疎化により失われつつある町の伝統や文化、自然環境などを未来へつなぐことを目的に活動を開始。
- 生産量日本一を誇るすだちをつなぎ役とし、都会と田舎に住む人と人が、お互いの暮らしを支え合うことで持続可能となる新たな関係性を目指し活動を開始。

取組内容

- 平成31年に神山町・JA名西郡・里山みらいの三者が協力して農業者の育成を行うための協定を結び、当法人が主体的に、農業次世代人材投資事業準備型の研修機関として研修生の受入れを開始。
- すだちのPRと販路を拡大するため、“シェフと農家の美味しい出会い”をコンセプトにしたイベント(すだち遍路)やSNSを使ったキャンペーン(すだちアワード)を実施。

活動の効果

- 町内外から8名を研修生として受け入れ、そのうち5名は既に町内で就農している。就農時には、リタイアや規模縮小する農家の農地を受け継ぎ、産地を維持している。
- すだち遍路では、飲食店が創作したすだちメニューを提供してもらうことで、新たな使い方や、従来使わなかった飲食店での使用など、すだちの消費拡大につながった。
- すだちアワードでは、消費者からすだち料理を投稿をしてもらい、SNSで情報を拡散することで、使い方の提案や神山すだちファンの獲得につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

当町の農業を守るため、担い手の育成を続けるとともに、東京を中心に行ってきたPR活動を、今後は消費者との関係性を大切にしつつ全国に展開し、すだち食文化を全国に広めたい。

住所・電話番号・SNS等

名西郡神山町神領字本野間100 Tel:088-676-1118

奨励賞

とくていひえいりかつどうほうじん

あかまつえんかほぞんかい

特定非営利活動法人 赤松煙火保存会

～できたん どしたん 吹筒花火～



奉納吹筒花火



奉納風景(「できたんどしたん」の掛け声とともに)



吹筒に火薬を詰め込む作業

経緯

- 赤松地区は過疎化と高齢化が著しく、約200年続く伝統ある吹筒花火の作り手が減少。その製造技法の衰退と赤松神社への奉納花火の継続が危惧されていた。
- 平成7年、有志により「赤松煙火保存会」を設立。平成25年、「赤松煙火保存会」を特定非営利活動法人として再構築し、担い手づくりと地域活性化に取り組む。

取組内容

- 地区内20の花火組ごとに製造技法が秘伝とされている吹筒花火の保存・継承のため、五穀豊穡と家内安全を祈願する赤松神社の奉納花火の継続活動に取り組む。
- 各種イベントでの吹筒花火の実演を通して花火の魅力を発信し、伝統文化への理解を深めてもらう活動を実施。
- 花火工場の維持管理、花火免許取得奨励、事故防止の保安教育などの活動に取り組む。

活動の効果

- 赤松神社の秋まつりに帰省する人や地域外から花火を観覧に来る人などで、毎年500人から800人の観覧客でにぎわい、毎年その人数は増加。
- 手造り吹筒花火の製作は、地域住民の共同作業を通して、住民相互のコミュニケーションが図られ、地域の活性化にもつながっている。これらを更に推進し、活力ある村づくりとするため、「赤松地区農村RMO推進協議会」に参加。
- 令和4年、吹筒花火が「阿波の吹筒花火」として徳島県無形民俗文化財に指定。

応募団体からのアピール・メッセージ

吹筒花火は、約200年の伝統と地元住民の手造りが特徴。点火され、吹き出す花火の下を若者が「できたん どしたん」の掛け声とともに、勇ましく駆け回る、全国の伝統花火の中でも珍しい光景である。是非、一度御覧ください。

住所・電話番号・SNS等

海部郡美波町赤松字総屋敷146-1 Tel:0884-79-3325

いん びとういーん ぶるーす

in Between Blues (iBB)

～空海藍がつなぐ故郷と世界～



上板町 藍師さん



inBetweenBlues 藍染作業



AWAii ALOHA

経緯

- サーファーとして世界を旅し、自然を大切にする様々な人々との出会いを重ね、故郷の「藍染文化」が人にも自然にも優しく互いの共存を支える素晴らしい文化と気付く。
- 波乗りを象徴する空と海、藍それぞれの美しき「青」をテーマにモノ創りを通して故郷の自然歴史文化の保全継承のため活動を開始。

取組内容

- モノ創りを通じた故郷の自然歴史文化の保全継承。
- 阿波藍や空海遍路など伝統文化とサーフ文化の融合。
- 空海藍をテーマに青でつながる徳島の魅力発信。
- 阿波藍文化の魅力(徳島の魅力)をLocal & Globalに発信。
- 地元の魅力発信による交流人口の創出。

活動の効果

- 県内の呉服屋と共同で、令和5年夏よりオリジナルブランドAWAii ALOHAをプロデュース。アロハシャツを、阿波藍や麻など阿波文化に縁の深い天然素材＋地元シャツ職人のハンドクラフト＋地元デザイナーのブランドロゴなどMade in Tokushimaをベースに製作。加えて、美術家の野老朝雄氏や京都の捺染技術など世界的なクリエイターや職人と連携しGlocallyなモノづくりを実践。
- 阿波踊り期間にPOPUPイベントを開催し、全国から300名を超える来場。環境省の森里川海プロジェクト関連イベントとして認可され、伝統文化と環境問題をつなげて発信。

応募団体からのアピール・メッセージ

本年は、インバウンドが著しく回復し、大阪・関西万博に向け国際交流の機運が高まりを見せている。この機に、ローカル(内面)探求がグローバル(世界)につながることを教えてくれた空海藍を世界と地域と後世に伝える絶好の好機と捉え、今後も精進していく。

住所・電話番号・SNS等

海部郡海陽町穴喰浦字松原216-3 Tel:0884-70-1488

合同会社みつぐるま

～海山川、世界をつなぐ故郷の祭と祈り～



日本の滝100選・轟の滝



轟神社秋例大祭



徳島大学建築サークルによる
轟神社リノベーションプロジェクト

経緯

- 400年以上にわたり守られてきた轟本滝神社と秋例大祭が、1次産業の衰退とともに担い手を失い、存続の危機にひんしていたが、その状況を憂いた若手が活動開始。
- 人的、金銭的にその運営・活動を支援し保全継承を目的に合同会社を立ち上げ、米づくりから携わる御神酒プロジェクトや文化庁事業など様々な活動に取り組む。

取組内容

- 轟神社及び海部川流域（轟の滝から海部川河口、靱浦漁港）の1次産業振興支援。
- 日本の文化経済発展を海部の林業、造船等が支えた歴史的背景の再考と発信。
- 轟神社御神酒とその酒粕を再利用した粕取り焼酎プロジェクト。
- ダイドーグループ日本の祭りシリーズに轟神社秋季例大祭が選出され番組を制作。
- 徳島大学建築サークルとの轟神社の環境改善共同プロジェクト。

活動の効果

- 御神酒プロジェクトの成功で海陽町の“米・水・塩”など土地の産物への注目度が向上。本年からは粕取り焼酎もラインナップに加え、今後は米焼酎やクラフトビール製造に挑戦し、既存の農作物や水産物の認知度・価値向上及び需要向上に貢献。
- 徳島大学建築サークルとの連携による建屋修繕活動が始まり、地域の若い世代との交流が今後更に深まることが期待でき、世代を超えた活動の共感・支持者の増加につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

故郷「海部」の豊かな自然環境と、先人たちが継承してきた農林水産業や多様な文化、叡智の価値と、それらを伝えるために守られてきた神社や祭りの大切さを、より良い形で地域や国内外の人々、そして後世に伝えるために日々活動している。

住所・電話番号・SNS等

海部郡海陽町奥浦字町内200 Tel:0884-70-5888

特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金

～コウノトリが舞う 笑顔輝く未来に～



耕作放棄地をビオトープに整備する作業



ビオトープ米でお酒を造るPJの田植え

経緯

- 鳴門市を中心とした農村地帯に、特別天然記念物であるコウノトリが定着・繁殖。
- 農村密着して生活するコウノトリの環境を豊かなものとするとともに、地域の農業、経済、社会を元気にするため、令和元年にNPO法人とくしまコウノトリ基金を立ち上げ、活動を開始。

取組内容

- 耕作放棄地をビオトープに再生し、コウノトリの餌場となる水田で農薬・化学肥料を低減した特別栽培米を栽培し、これを用いた日本酒を製造するプロジェクトを主導。コウノトリを起点とした関係者間での地域資源とお金の循環システムを構築。
- ビオトープを活用し、小学生を対象としたコウノトリが生息する水田環境の学習や、大学生、生協組合員を対象とした農薬・化学肥料に頼らない稲作体験を実施。

活動の効果

- 耕作放棄地を活用したビオトープの面積は、70a(令和元年度)から464a(令和4年度)と約7倍に増加しており、耕作放棄地の活用が促進。
- 環境学習への参加者は、16名(令和3年度)から27名(令和5年度)に増加見込み。また、大学生等による農薬・化学肥料に頼らない稲作体験についても、30名(令和4年度)から80名(令和5年度)に増加見込みであり、自然環境の保護やグリーンな稲作への理解を促進。

応募団体からのアピール・メッセージ

耕作放棄地のビオトープへの再生を拡大するとともに、防災・減災機能を持つビオトープの整備を行いたい。域内の米やレンコン農家、地元企業との連携を深め、地域の農業や社会の活性化を目指す。

住所・電話番号・SNS等

徳島県板野郡北島町中村字岸ノ上1-288

かわうち かぶしがいいしや

は一とふる川内 株式会社

～障がいと共に生き、農業で働いて元気になる～



農園で働く社員



ノウフクマルシェ2022(東京・二子玉川)への出品

経緯

- 大塚製薬株式会社の特例子会社として障がい者雇用を進めていたが、知的障がい者へ十分な業務を提供できていなかった。
- トマトの生産・販売を手掛けるグループ会社からの提案により、障がい者雇用農園を設立。障がい者とともにトマトの生産販売を開始した。

取組内容

- 障がい者の新規職域開発として、ハウストマトの生産、ドライトマトの製造、販売を行う(6次産業化・農福連携)。
- 「とくしま安²農産物(安²GAP)」を取得し、安全な職場整備と安心安全なトマトを提供。
- 障がい者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定(もにす認定)を取得。
- ノウフクJAS認証事業者となり、全国的な農福連携の啓発を推進。

活動の効果

- 農業は知的障がいのみならず、精神障がいや発達障がいのある人の就労の場として活用できることを、自社の実績から証明できた。
- 障がい特性に応じた支援や指導を行うことで、職業人として農業に従事できるようになってきた。4名の知的障がい者の雇用から開始し、現在は8名まで増加。
- 障がい者雇用に関わるロールモデルとしてセミナーや見学会等を積極的に行い、各職域での障がい者雇用の推進を図っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからもトマトの花言葉である「感謝」の気持ちを込めて、農福連携に取り組んで参ります。

住所・電話番号・SNS等

板野郡北島町高房字居内1-1 Tel:088-678-5276

いたのう
らーんずita農

～今度の休みがお天気だったら板野町で会いましょう～



スタンプラリーを併せたリーフレットの作製



農園ぶらんこペイントのイベント

経緯

- 徳島県板野町で農業や酪農を営む女性たちが集まってできた女性ファーマーグループ。
- 公務員や高校教師、保育士等の経歴を持つ個性豊かなメンバーが、板野町の「美味しいもの」や「季節の見どころ」をもっとたくさんの人に広めたいという思いで活動をスタートした。

取組内容

- メンバーはそれぞれ、直営カフェやジェラート店の経営、ジャム等の製造販売、観光農園等の6次産業化に取り組む。
- 農業を軸にして、町内散策マップを使ったスタンプラリーの実施、農園ぶらんこを使ったフォトスポットの創出、メンバー主催マルシェとのコラボイベントの開催。
- 地元板野高校の「とくしまエシカルアクション」プロジェクトに参画。エシカルやSDGsの学習の場を提供している。

活動の効果

- スタンプラリーや、マルシェ等のイベントを定期的に行うことで、町内のにぎわい創出につながっている。
- 農畜産物・加工品等の売上げの増加。地元農産物の消費拡大、地産地消への理解促進。
- 板野高校のエシカルプロジェクトでは、メンバーの前職(教師や保育士等)をいかした授業を行い、農業や酪農を通じて、地域の異世代との交流が広がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

引き続き、町内散策マップの活用やホームページ、SNS等での情報発信により、板野町の基幹産業である農業を軸として、町内外の人に板野町の魅力発信を続けていきます。

住所・電話番号・SNS等

板野郡板野町古城字新町東9 Tel:090-8973-6611

け か さ い せ い

家賀再生プロジェクト

～家賀の藍は日本の桃源郷からの贈り物～



国内最大の傾斜地集落「ソラ」と呼ぶ家賀集落



ソラの藍畑は無農薬・無化学肥料

経緯

- つるぎ町貞光の「家賀」は、剣山系最大の約500mの標高差をもつ「ソラ」と呼ばれる日本最大の傾斜地集落。
- 徳島県内でも急激な過疎化が進む家賀地区に、以前の繁栄を復活させるため平成30年に家賀再生プロジェクトを発足。
- 戦前まで実施されていた藍栽培の復活で地域の活性化を目指す。

取組内容

- 傾斜畑でカヤ・落葉などを用いた伝統的な自然循環型傾斜地農法で「藍・野菜・雑穀」を栽培。「藍」は、食用等の用途として利用の幅が広がっており、パウダー化して販売。
- 多くの企業等と、ジョイント商品の共同開発。
- 農泊施設の誘致による、農業体験施設の開設。
- 地域資源の活用（茶、草木染、織物、薬草）にて、オリジナル商品を開発。

活動の効果

- 傾斜地農耕システムは、SDGsの取組に優れ、カヤ農法はカーボンニュートラル達成への手段として、評価されることとなった。
- 企業から、家賀地区と首都圏企業とのマッチング支援を受けた結果、食品関連会社が当地に農園を開設した。同園での作業に、農福連携により患者や家族会が参加するなどで、関係人口は延べ3,000人を超えた。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業体験ツアー等を通して、持続可能な伝統農業として、SDGs、CO₂削減を提唱する。また、農家民宿、廃校の再利用等で情報発信の拠点作りや、新規就農者、リース法人の農業参入の支援を実施する。

住所・電話番号・SNS等

美馬郡つるぎ町貞光字大須賀44-8 Tel:088-367-1447

記念賞
応募

きとう

きょうぎかい

木頭ゆずクラスター協議会

～ゆず産地の存続を！木頭ゆずクラスターの取組～



木頭ゆずフェア



木頭ゆず祭り

取組内容

- 「木頭ゆず」の6次産業事業者と連携し、スーパーマーケットトレードショー・FOODEXなど全国商談会への出展や有名百貨店での「木頭ゆずフェア」等を実施。
- 大手流通企業と連携し、「木頭ゆず」の缶チューハイやポン酢、各種スイーツ等PB商品の全国販売、店舗でのPRイベントの開催、ネット通販などを実施。

前回選定後の情報発信の取組

- 「ディスカバー農山漁村の宝 チャレンジ賞」の受賞を契機に、テレビ、新聞、情報誌等の各メディアへ掲載されることで情報を発信。
- フランスの料理雑誌「Sushi」に木頭ゆずを使った郷土料理「かきまぜ」が掲載。
- Instagram等のSNSを活用し、「木頭ゆず」のPRやイベント情報を発信。また、視察の依頼を受入れ。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 木頭ゆずは、平成29年に徳島県産品としては初となる地理的表示保護制度(GI)を取得し、地域ブランドとしての地位を確立。
- 令和3年度に木頭ゆずを使った郷土料理「かきまぜ」が、文化庁の100年フードに認定された。令和4年度には、「かきまぜ」の100年フード認定を記念して、未来コンビニ(木頭)で第1回木頭ゆず祭りを開催し、「かきまぜ」の実演・販売などを行い、多くの観光客でにぎわった。

応募団体からのアピール・メッセージ

本協議会の活動を通して、「木頭ゆず」のブランド力強化を図り、生産者の所得を改善・向上させることで、山間部における「もうかる農業」の全国的な成功モデルとなるよう育成していきたい。

住所・電話番号・SNS等

那賀郡那賀町延野字王子原31-1 Tel: 0884-62-3776

記念賞
応募いっばんしゃだんほうじん おおほけ いや かい
一般社団法人大歩危・祖谷いってみる会

～ガストロノミー(美食)でインバウンドの復活を！～



世界農業遺産の農法や急傾斜地を体験



ガストロノミープロジェクト試食会

取組内容

- 「世界に通用する観光地域づくり」として、行政と連携したインバウンドの誘致や地域資源を生かしたイベントやツアーを企画・実施。
- コロナ禍となり新たに官民で「ガストロノミープロジェクト」を立ち上げ食でインバウンドの復活を実施。

前回選定後の情報発信の取組

- インバウンドへの取組は現地プロモーション、ファムトリップ等を実施し、それに伴う雑誌、テレビ、SNS等での情報発信。
- ガストロノミープロジェクトのアンバサダーである大桃美代子氏によるSNS等での事業情報の発信。
- ガストロノミーツーリズム国内フォーラムでの登壇、国際フォーラムへの出展。
- 令和2年、3年度末に東京で有識者に三好市の食を披露する「三好市フェア」を実施。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- インバウンド客数が伸びていたところコロナ禍となり、国内外の集客数が激減した。こうした事象にぶつかり三好市、徳島県、DMO、大歩危・祖谷いってみる会で、新たに「ガストロノミープロジェクト」を立ち上げ食のブランド地域として復活を目指す。
- 「わざわざ美味しいものを食べに行きたい場所」への転換を目標に、世界農業遺産である「にし阿波の急傾斜地農耕システム」や酒蔵の見学等により地産地消と食レベル向上に取り組む。食のブランド地域として来訪者から評価を受けるよう鋭意実施中。

応募団体からのアピール・メッセージ

「100年後も美しい大歩危・祖谷であるために」

この理念は美しい風景がいつまでも残り、そこに住む人々がいきいきと暮らすことができ、世界中の人々を魅了する場所であり続けることを希望している。

住所・電話番号・SNS等

三好市池田町松尾松本367-28 Tel:090-3397-8341

記念賞
 応募

 か も だ に げ ん き
 加茂谷元気なまちづくり会

～個性とチームワークで住民主体のむらづくり～



都市圏での就農誘致活動



移住就農希望者への農業体験ツアー

取組内容

- 空き家、空き農地を活用した移住・就農を促進させるため、都市部での移住就農誘致活動を実施。
- 地元で採れた農産物のスーパー等店舗内の産直市への共同出荷。
- 農村RMO形成を推進するため、加茂谷RMO推進協議会を発足させ、事務局として農地保全・生活支援等に取り組む。

前回選定後の情報発信の取組

- 徳島県移住コーディネーター養成講座の講演を年2、3回実施。
- 令和2年度から、徳島県初年度職員短期研修の受入開始。
- ホームページに移住就農者の紹介コーナーを新設した結果、移住につながる。
- オンラインで実施していた都市部の移住就農誘致活動を、令和5年度から現地での対面方式で実施。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 令和3年5月から路線バスが廃線となった地区において、介護保険を利用した高齢者移送支援サービス「ご近所ドライブパートナー制度」を開始。
- 令和4年1月から、フードロス削減のため、産直市に出荷できない葉物野菜の外葉や極度に変形した農産物を、週に1回程度、近隣の動物園にエサとして提供。
- 令和5年7月28日に加茂谷RMO推進協議会を発足させ、事務局として取り組む。

応募団体からのアピール・メッセージ

これまでの取組の展開により、少子高齢化が進む中山間地域において、地域コミュニティを維持する方策に関して検討を実施していきたい。

住所・電話番号・SNS等

阿南市細野町中上17番地 Tel:090-1176-3133 <https://kamodani.sakura.ne.jp/>

記念賞
応募にい きよ
新居 希予

～歴史に眠る食材で地域まるごと表現する農業～



新居 希予さん



伝統食材の継承と復活・栽培・製造



プロデュースしている弥生紫

取組内容

- 伝統黒米「弥生紫」をプロデュースし、「フード・アクション・ニッポン アワード 2016」で受賞。
- 耕作放棄地の茶畑を再生させ、阿波晩茶を製造。
- 食育活動として、伝統食材の提供、定木を使う昔の田植や石包丁を使った稲刈り等の農業体験の実施、学校向け食育だよりの発行。

前回選定後の情報発信の取組

- テレビ、ラジオ、新聞、YouTube等のSNSを活用し、徳島県の食文化や伝統食材の魅力を発信。
- 伝統食材クリエイターとして、地産地消の啓蒙活動を実施。
- 出身地の兵庫県多可町と徳島県阿南市から農産物や特産物のPRをするためのアドバイザー委嘱を受け、分かりやすく食の魅力を伝える。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 令和3年に県産の食材をPRするためのグッズ開発を開始。注文を受けイギリスから発送し、国内外での販路開拓に取り組む。
- 令和2年から大学の阿波晩茶研究チームに協力。令和4年に徳島県海洋教育学校や漁協・海洋学者等の他事業分野と新たに連携。
- 令和5年に「食農教育協会」を設立し、食と農業と教育を結びつける活動を開始。県内高専の農業の部活に農家やJAの協力を得て農具の提供を実施。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の伝統食材を生産・継承・復活し魅力発信！食を大切に思う人々と連携し地域まるごと表現中！

住所・電話番号・SNS等

YouTube:なかがわ野菊の里 Facebook:新居希予 X:@nii_nogiku

記念賞
応募

ご っ っ お あ わ

GOTTSO阿波

～野菜でまちおこし！若手農家たちの奮闘記～



「新」ブランド野菜 ミニ白菜の「ミルフィ～菜」



高校生による美～ナスのレシピ開発、SNSでの広報

取組内容

- 翡翠ナスの産地化に取り組み、「GOTTSO美～[®]ナス(以下「美～ナス」という。)」の名称で、新たな阿波市特産品として生産。
- ブランド野菜として都市部への販路を開拓。
- グローバルGAP、とくしま安²農産物(安²GAP)(優秀)を取得。
- こども園や小学校での食育活動。

前回選定後の情報発信の取組

- 2020東京オリンピック・パラリンピック選手村に美～ナスを納品するという目標を達成し、世界中の人に自分たちの野菜を食べてもらうことができた。
- 2025大阪・関西万博のパビリオンに、「徳島県阿波市の農業」として関わられるよう活動。
- グループの活動を、優良事例に認めていただいたことで、メンバーの自信と誇りにつながった。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 冬のミニ白菜「ミルフィ～菜」を新しいブランド野菜として栽培。小ぶりサイズで新鮮なまま使い切れるため、食品ロスの削減にも貢献できる。
- 食育を受けた子どもたちが大きくなり、高校や大学で「美～ナス」や「GOTTSO阿波」が研究題材となることが増えた。
- 飲食店との販路を持つ卸売業者とつながり、全国の飲食店へ販路が拡大している。

応募団体からのアピール・メッセージ

子どもたちや若い人たちに「農業」を職業の選択肢のひとつとして挙げてもらえるよう、楽しく、格好良く、活動を続けていきます。

住所・電話番号・SNS等

HP: <https://gottsoawa.com> E-mail: gottsoawa@gmail.com

記念賞
応募

くろかわ しんたろう

黒川 真太郎

～田舎の宝を活かした小さな6次産業と食育～



阿南市役所内でお米パンの販売



月1回のラジオ生放送・情報発信

取組内容

- 環境保全型農業で農産物を栽培。お米を使ったパンを製造し、「おやつ的小屋」という店名のパン屋で販売。
- 休園した幼稚舎を有効活用し、学童保育を開設。
- 「子供の食堂」を立ち上げ、地域の子供たちが旬の地元食材を調理することにより食育を実施し、地域住民との交流の場となる。

前回選定後の情報発信の取組

- 地元地方新聞、阿南市の月間広報誌に「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されたことが掲載。
- 平成28年からレギュラー出演しているラジオ番組で「ディスカバー農山漁村の宝」の魅力と選定式を報告するとともに、イベント情報を告知。
- 阿南市ケーブルTVや新聞で、お米の有効活用、クッキング、防災＋子供の食堂当等の活動が報道。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 「子供の食堂」を立ち上げ、これまで6回開催。5回目以降は防災対策をプラスし、太陽光発電でためたエネルギー活用の実体験できる食堂になる。
- お米を使ったパンは好評で、市外、県外からも多くの来店があり、地元のお米と蜂蜜を使った食パンは、1日に200斤が完売。
- 「新野源流米」が徳島県「ふるさと納税返礼品」に登録。農家たちのより意欲的な米作りにつながる。

応募団体からのアピール・メッセージ

縁があって移住したこの町を、地域のたくさんの方たちと一緒に、子育てから魅力ある町づくりに意欲的に取り組んでいきたい。

住所・電話番号・SNS等

阿南市新野町東山56-4 Tel:090-3450-8853

記念賞
応募

かぶしきがいしゃ

株式会社リブル

～オイスターファーマーをあこがれの職業に！～



ブランド牡蠣“あまべ牡蠣”

技術相談：支援：24週間
種苗出荷：12箱
成苗出荷：13郡県



広がるリブルネットワーク



全国商工会冊子の表紙を飾る

取組内容

- 牡蠣養殖技術のAI化と強い種苗を通じて「誰でも・どこでも・牡蠣養殖ができる」養殖技術の汎用化を目指す。
- 牡蠣養殖のデータやアプリを活用し、養殖技術の見える化の実現。
- IT技術を駆使した新しい姿の水産業を次世代の子供たちに知ってもらうために、教育現場への出前授業や漁場案内を実施。

前回選定後の情報発信の取組

- 自社サイトの運営(14,930PV)。
- 「note」でのストーリー発信。
- 求人情報サイト「Wantedly」で採用情報・企業ストーリー発信(募集PVランキング40位/41,397社)。
- 人気漁師YouTuber「漁師まさ」と「まさ&けん」で、リブルの種苗と技術提供。関連動画は累計91万6,000再生回数を記録。
- 新聞・雑誌への掲載やテレビ・ラジオ、外部イベントへの出演のほか、視察も受入れ。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 株式会社リブルが開発した牡蠣のスマート養殖システムを他地域に展開。
- 種苗開発、技術支援によるリブルネットワークの拡大・連携強化。
- 販路拡大のため、マレーシアへの出荷をスタート。さらにASEAN諸国向け輸出を本格化するために、GFP(農林水産物・食品輸出プロジェクト)に参画。
- 移住者や地元住民の従業員雇用を実現し、創業時3名から15名に拡大。
- クラウドファンディングを実施し、海陽町内の地元漁協跡地を新たな拠点として整備。

応募団体からのアピール・メッセージ

水産学部の生徒を定期的に採用し、就職の選択肢に水産事業者があることを示す。新卒採用をはじめとした20代中心の人材募集に力を入れ、就職の選択肢に水産業が選ばれる世界を目指す。

住所・電話番号・SNS等

海部郡海陽町穴喰浦字那佐337-55 Tel:0884-70-5888